

かみはやまるごとワクワクしようぜ! 「かみはやキャラバン」

「私たちのふるさとのミライを もっとポジティブに!」

私たちの学校は梅畑やみかん畑に囲まれています。全校児童は68人で兼業・自給的農家を含めると、なんと100%が梅農家! おうちの手伝いで`落ち梅拾い、をするなど梅と共に生活しています。学校でも梅についての学習は3年生から始まり、その集大成に自分たちで梅干しを作り修学旅行先で無料配布します。

この`梅配り、をさらなる学びの機会にアップデートしようという思いから、「かみはやミライ塾」(※1)での熟議を通して「かみはやキャラバン」が生まれました。そして、不動産や映画館経営を手掛け、白浜町にも拠点を持つオーエス株式会社(本社:大阪市北区)さんの協力で、大阪・梅田地区でのイベントが実現。小学校に加え、中学校・町内会・公民館・地域の事業者などが協力し、5月26日に最初のイベント「かみはやキャラバン 梅田でうめ〜!2024」を開催しました。



イベント終了後、オーエス株式会社本社にて参加者全員でパシャリ!

このイベントを通して、私たち地元の新たな魅力を再発見することができ、ミライをポジティブに捉えるきっかけになりました。今後も、さまざまなイベントを通して上芳養の魅力さをさらに広めていきたいと考えています。



キャラバンの活動はコチラ



都会の真ん中で落ち梅拾い!?



上/400個準備した梅が25分で配布終了(梅田にて)

左/中学生による梅シロップ作り体験ワークショップ

※1 上芳養地区のこどもたちが、地域、学生、民間など、幅広い外部人材とともに、熟議し、共働い、上芳養の新たな価値を見出し、発信する活動を通して、地域に貢献する意欲や、今後の予測不可能な社会を切り開く創造性を高め、育むための活動です。

きのくにの教育めぐり



有田市教育委員会

有田市は、二級河川・有田川の河口に位置し、川を挟んだ両岸にはミカン栽培の段々畑が広がります。海の幸も豊富でタチウオが特に有名。また、熊野古道が縦断し、中将姫ゆかりの地・得生寺や、須佐神社など歴史深いまちでもあります。

階段の先には白馬の像が見えるよ!



須佐神社

教育長挨拶

有田市教育委員会 教育長 前田悦雄

有田市では「次代を担う人材育成」と「心豊かな人を育み、地域で支え合うまち」を実現するために、認め合い、学び合い、郷土を愛することの育成を図っています。

また、集い・学び・つなげる地域の力の向上を目指して、生涯学習活動を推進してまいります。

市立有和中学校 開校

市内にあった4中学校を統合し、令和6年4月「有田市立有和中学校」(有田市箕島)が開校しました。`有和、の校名は、有田・和歌山の地名にちなむもので、「和やかに仲良く学べる学校に」という願いも込められています。

校内には、生徒同士や教員とのコミュニケーションの場としてオープンスペースを設け、多様な学びのスタイルを可能にしています。また、最新のICT機器を導入する一方、図書を充実させるなど、個に応じた学習に対応できる環境を整えました。

さらに、体育館棟には災害時に冷暖房が備わった避難所となる武道場を最上階に配置し、地域の防災拠点としての機能も担っています。

有和中学校が、こどもたち一人ひとりの豊かな学びの場となり、郷土はもちろん、さらに広い世界で活躍できる人材育成を担える学校となることを信じています。



上/正門からの外観 左/ICTを活用した授業の様子 下/オープンスペース

有田市健康スポーツ公園

BIG SMILE PARK ~からだ、こころ、満面の笑み~



サッカーフィールドと屋根付き多目的ひろば(写真奥)



正面入口

有田市では、スポーツによる市民の健康増進やコミュニティが育まれる場を創造するため、平成30年に有田市運動型健康増進総合施設基本構想を策定し、令和6年3月に「有田市健康スポーツ公園BIG SMILE PARK」(有田市初島町浜)を開園しました。本施設は、(公財)日本サッカー協会の公認基準を満たしたサッカーフィールドを有し、その他イベントなどにも利用できる屋根付き多目的ひろば、28種の健康遊具を点在させたウォーキングルート、こどもたちの運動能力を高めるアスレチック遊具やインクルーシブ遊具など、スポーツ振興や健康増進に役立てられる施設となっています。また、防災公園としての役割も担い、災害対応トイレなどを備え、発災時には主に災害復旧の拠点として役立てられます。

日々の健康づくりのため、たくさんの方々に利用いただき、人・まちの活性化につながることを期待しています。



国内最大級のスライダー

輝く! 紀の国の先生

御坊市立湯川中学校 英語科 小池 ハンナ 先生

今回の「輝く!紀の国の先生」は、御坊市立湯川中学校の小池ハンナ先生。東京で生まれ育ち、就職をきっかけに和歌山県に移住。生徒と笑顔でフレンドリーに話す姿が印象的な小池先生の魅力をインタビューを通してお届けします。



— 就職をきっかけに和歌山に来られたとのことですが、和歌山にどんな印象をもちましたか?

来たばかりの頃は職員会議などで、和歌山弁が分からないこともあり、戸惑いました。また、車の運転も慣れていなかったのが大変でした。でも、和歌山の学校に来て、東京にはない海が校舎から見えただけは感動しました。仕事中、ふとした瞬間に海を見て心が休まること何回もありました。それから、人との心の距離が近く、あったかい人が多いと感じます。



— 人との心の距離感でいうと、小池先生が生徒とフレンドリーな距離感で接していて、すてきなと感じました。

和歌山のこども達はすごく素直でまっすぐな子が多くて、壁を作らないでいてくれるのがとてもうれしいです。

授業も、一方通行ではなく双方向であってほしいので、生徒の言葉から授業を広げることを意識して、生徒とのコミュニケーションを大切にしています。チーム対抗戦のアクティビティをするなど、楽しく前向きに勉強に取り組める工夫を心がけています。

— 学校生活の中で、生徒の成長や、教員としてのやりがいを感じた出来事はどんなことですか?

悩んでいる生徒が「もうちょっと頑張ってみる」と、自分自身の力や可能性を信じて壁を乗り越えようとする姿を見た時、生徒の成長を感じられたと同時に、自分も頑張ろうという思いになりました。

また、前の学校の離任式では、担任をしていたクラスの卒業生がサプライズで集まって送り出してくれたのが本当にうれしかったです。家族のような強い絆を作り上げてくれた彼らとのかけがえのない時間を過ごせてとても幸せでした。

— 和歌山のこども達には、どんな風に育ててほしいですか?

今こども達が持っている明るさや、素直でまっすぐなところは、進学等で県外に行くことがあっても持ち続けてほしいです。私自身も外に出て挑戦することによって気づきが多くあったので、生徒にもたくさんのご経験を、その上で良い所を伸ばし、多方面で活躍する人材になってほしいです。



小池ハンナ先生、ありがとうございました!